

平成 25 年度補正予算による継続課題に係る継続 評価書

研究機関 : 日本電信電話(株)、沖電気工業株式会社

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発
課題 I (a)加入者ネットワーク多分岐化・長延化技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 吉本 直人

■ 総合評価 : 適

(評価点 20 点 / 25 点中)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 計画通りに進捗しており、国際競争力のある成果が期待できるが、査読付き誌上発表論文数に係る目標達成を望む。
- 最終の総合評価で予想を上回る性能が得られることを大いに期待している。
- 外部発表も多く、また標準化活動も積極的に行っている。目標の達成に向けて必要な予算計画および妥当な実施計画をたてている。体制強化のため、人員増強を行ったことも評価できる。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果等が認められる。

(コメント)

- 国際会議発表、国際標準化活動を通じて国際競争力の強化に努めており、計画通りの成果が得られているが、目標としていた査読付き誌上発表論文がなく、今後に期待する。
- システム設計の机上概算値であるが、従来比で3割以上の消費電力削減効果を見込めることは高く評価できる。
- 外部発表、ならびに標準化寄書を多く行っており、成果の公表という点で極めて高く評価できる。
- 研究は順調に遂行されている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

予算計画書あるいは適切な理由に基づく支出変更理由に則り、有効、効率的かつ適正な執行が行われている。さらに、資金管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 研究費は、ほぼ当初の予算計画通り執行されている。

(3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

実行可能であり有効かつ効率的な計画である。

(コメント)

- 動作検証・性能検証、課題間連携を含めて、実行可能な計画になっている。
- 研究開発計画は的を絞ったものとなっており、最終年度での成果達成にむけた妥当な実施計画である。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。

(コメント)

- 目標の達成に向けて有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も含めて妥当である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

適切な実施体制が組まれており、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- 課題間の連携を含めて、適切な実施体制になっている。
- 体制強化のため、人員増強を行ったのは評価できる。研究成果をより多く公表できることが期待される。